

## 生徒同士で教え合い😊学び合う、その授業の工夫とは？

10月26日(水)、理科部の小松佐知子先生が授業を公開しました(3年6組)。本時は、「水中ではたらく力」について理解を深めることがねらいです。

小松先生のたくさんのイイねを、バディの山城祥太郎先生が紹介します。



### イイね① 【授業後の期待する生徒の姿】

水圧と浮力についての知識を、確実に定着させるために、グループ内で話し合いながら答えを共有し、水圧と水深の関係、浮力と水深の関係について深く学ぶことができた。

### イイね② 【生徒が学びに向かう姿は見られたか】

前時の実験結果から生まれた浮力についての「問い」に対して、授業者が答えを導き出すことなく、ホワイトボードを使って生徒同士で試行錯誤し、問題解決する姿が見られた(右図①が問い、②が結論)。

### イイね③ 【生徒が思考をOutputする場面の設定】

生徒が個人で考える前に、ペアで話し合う場面を設けることで、理科が苦手な生徒でも粘り強く考え、自分なりの考えを記述する姿が見られた。また、授業終盤には1枚ポートフォリオを使って、生徒がどの程度理解を深めることができたか記述させることで、その変容をみとる授業がデザインされていた(右図③)。

### イイね④ 【キャリア教育 か・ふ・や・みの視点】

個人→ペア→グループ→共有→個人という一連の活動で、生徒は自己・教材・他者との対話を通して、「かかわる力」が育まれていた。

### ① 問題・課題は「問い」をもとに設定する

浮力の新たな問②

○『水圧』は『水深』が大きくなると『大きくなる』のに、『浮力』は『水深』が大きくなっても『変化しない』のはなぜ?

※自分の考えとそれを説明する図を書く

### ② 結果から子供たちなりの結論(意見)を導く過程

水深が深くなると水圧も大きくなり、その分浮力も大きくなるため、引いて求めた浮力の値は変わらないから。

### ③ 自分の変容を自覚させ、新たな「問い」につなげる

(1枚ポートフォリオ：浮力と物体の関係は?)



本時の授業×問いサポ P. 26

## 「問い」が生まれる授業展開のポイント(理科)

### ～「問い」を生かした探究活動(問題・課題解決学習)の展開～

理科の学習は探究活動(小学校：問題解決学習、中学校：課題解決学習)を中心に展開されます。その際教科書に示された「問題・課題」をそのまま提示するのではなく、自然事象とのかかわりから出てきた気付きや「問い」から「問題・課題」を設定することが、児童生徒の主体的な学びにつながります。以下の探究活動の展開例をもとに「問い」を生かした授業づくりに取り組みましょう。